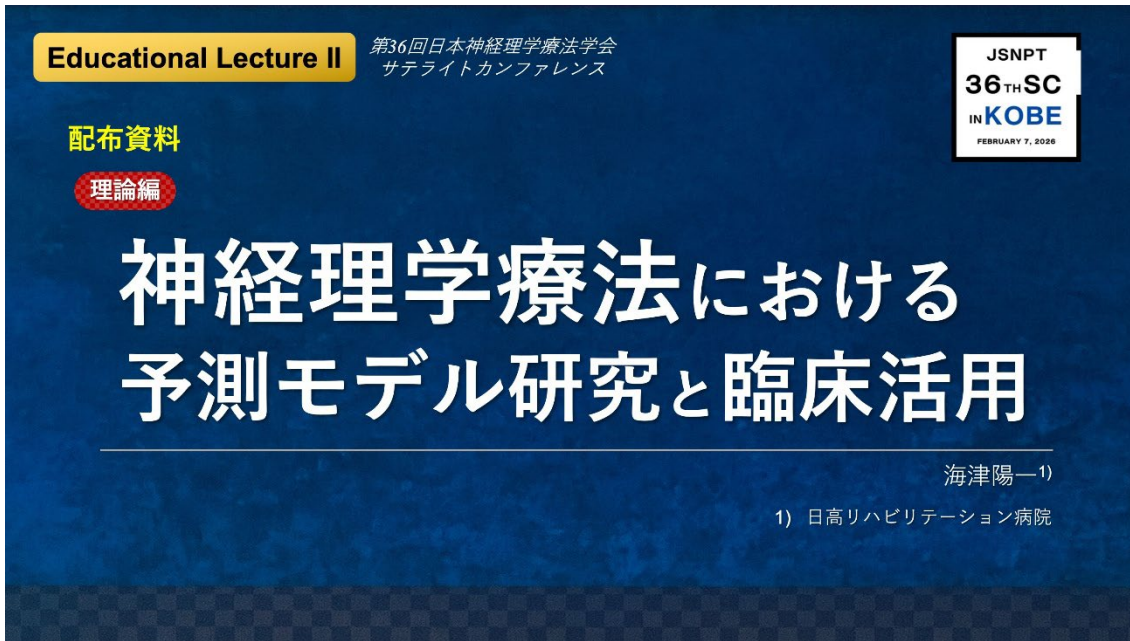


第 36 回日本神経理学療法学会サテライトカンファレンスでの講演報告



2026 年 2 月 7 日に開催された第 36 回日本神経理学療法学会サテライトカンファレンスにおいて、リハビリテーションセンターの海津陽一（理学療法士）が教育講演を担当しました。本講演は、臨床現場で近年注目されている「臨床予測モデル」をテーマとし、その基本的な考え方から実際の活用方法までを解説する内容でした。

講演テーマ

「神経理学療法における予測モデル研究と臨床活用」

本講演では、「臨床予測モデル」とは何かという基礎から説明しました。臨床予測モデルとは、患者さんの年齢や身体機能、検査結果などの情報をもとに、「将来どのような経過をたどる可能性が高いか」を統計学的に予測する方法です。たとえば、脳卒中後にどの時期に歩行が自立できるかを予測するなど、治療計画や目標設定に役立てることができます。

医療現場では、これまで経験や勘に基づく判断も少なくありませんでした。しかし、経験だけでは説明や共有が難しい場合があります。予測モデルを用いることで、判断の根拠を明確にし、医療者間で共通の基準を持つことが可能になります。また、患者さんやご家族にも見通しをわかりやすく伝えられるという利点があります。

講演の意義と今後に向けて

近年の医療は「根拠に基づいた判断」が重要視されています。臨床予測モデルは、治療の質を高めるだけでなく、限られた医療資源を有効に活用するための重要な手段となります。一方で、予測はあくまで可能性を示すものであり、個々の患者さんに合わせた丁寧な判断が必要であることも強調しました。

当院では今後も、科学的根拠に基づく医療の実践と研究活動を継続し、患者さん一人ひとりにとって最適なりハビリテーションの提供につなげてまいります。

